

審査結果の要旨

審査対象者 森谷 栄子

近年、在宅医療と介護のニーズを有する患者への退院支援が重視される中、退院支援看護師の実践活動は複雑化し、困難を抱えていると想定されるが、退院支援看護師を対象とした系統的な教育プログラムは確立されていない。そこで本論文では、退院支援看護師の看護実践の実態及び看護実践とリフレクションとの関連、さらに困難事例の退院支援看護師の看護実践の様相とリフレクションの要素を明らかにすることを目的とし、全国の急性期病院の退院支援看護師 670 名を対象とし悉皆調査を実施した。さらにその中から同意が得られたリフレクション実施群 9 名、非実施群 6 名に半構造化面接を実施し、2 人暮らしの自宅退院の困難事例について語ったリフレクション実施群、非実施群各 4 名を分析対象とした。

悉皆調査の結果から、退院支援看護師は、看護師経験年数は長いものの退院支援看護師の経験年数は短い者が多く、退院支援や在宅療養支援に関する知識や技術に対する効果的な教育が重要課題と考えられた。特に経験年数 13 か月以上のリフレクション実施群においては、「退院支援計画作成」「患者家族との面談」「退院支援計画の遂行」「退院後のモニタリングと評価」等の困難感が低く、実践内容に対する効果的な教育プログラムの必要性が示された。さらに看護実践でのリフレクションは、実践活動における困難感の軽減につながることを推察された。また面接の結果から、リフレクション実施群は、自宅退院調整の依頼時期に、患者家族が抱く退院後の療養生活への意向を踏まえ、療養生活の質の維持向上を視野にいたした社会資源を調整し、地域医療関係者に課題を引き継いでいた。さらにリフレクションを通し、目指したい支援を見出しエンパワメントされていると考えられた。退院支援看護師の看護実践能力の向上には、退院支援看護師が抱く困難感に着目した教育プログラムの開発と自己の看護実践のリフレクションを促進する支援方法を確立する必要性が示唆された。

本論文は、急性期病院の退院支援看護師の実態を明らかにするために全国の急性期病院を対象に悉皆調査を実施しており、その成果は退院支援の質向上に資するものと期待できる。さらに、退院支援看護師のリフレクションの有無に着目して実践内容を比較検討した点は、独創性があり、教育プログラムの開発につながる先駆的研究と評価された。研究結果には、困難事例に対する看護実践の豊富なデータが盛り込まれ、看護実践の様相が生き生きと表現されている。さらにその実践内容から抽出された看護スキルは、本研究が目指す、退院支援看護師の教育プログラム開発の基礎データとして発展的に活用できるものと評価された。

予備審査時に指摘されたリフレクションに着目した背景の明確化及び適切な分析方法の明記については、修正されていることが確認された。但し全体分析結果に基づきリフレクションの段階毎にリフレクション実施群非実施群の特徴を捉え、看護実践におけるリフレクションの内容、実践への影響等について、論文の成果がより明確になるような構成を検討することが課題とみなされた。

今後は、さらに継続して研究に取り組み、退院支援看護師への看護実践に活用できる教育プログラムを作成することが期待される。

学位審査委員会では、看護学研究の発展に寄与し地域看護学の実践の向上に意義を有することを高く評価し、本論文を博士（看護学）の学位授与に値するものとして認める。

試験結果の要旨

審査対象者 森谷 栄子

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。